平成 23 年度　事務事業事後評価調書（平成　22　年度事業）

整理番号	5 ― 27

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	敬老会賄費等助成事業					
評価者	担当課名		保健福祉課	担当係名		社会福祉係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	淡 路 至 尊		氏名	渡 部 憲 一
事業の概要	敬老の日を中心として、多年の労を労うことを目的に自治会等において開催している、敬老会の実施に係る費用負担の一部を賄費として支給している。			全体計画 /単年度繰返 （平成 20 年度～ 24 年度）		
				事業費	国･道支出金	千円
					地方債	千円
					その他	千円
					一般財源	7,500 千円
					事業費計	7,500 千円
実施方法	■ 直営		□ 民間委託		□ その他（　　）	
第 5 期 総合計画（前期）	■ 登載事業		□ 非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	2	ぬくもり･雄武～保健･医療･福祉の充実～			
	基本施策	7	高齢者支援の充実			
	単位施策	3	社会参加の促進			
	事務事業の種類	■	自治事務	□	法定受託事務	
	その他計画･根拠等		雄武町敬老会賄費等助成事業要綱			

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
	国･道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額（一般財源）	1,448 千円	1,504 千円	1,356 千円	1,564 千円	1,500 千円
	合計	1,448 千円	1,504 千円	1,356 千円	1,564 千円	1,500 千円

2　事務事業の目的･内容（Plan･Do）

【誰、何が（対象）】	満７５歳以上の高齢者	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	急激な高齢化が進む中、健康で安心して暮らせる長寿社会づくりが望まれる。	助成対象人数		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	長寿を祝福することは、多年の労に対する労いや敬老思想の高揚に繋がる。	① 支給実績	目標年度	22年度
			目標値	678 名
			実績値	678 名
			達成度	100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	長年にわたり社会に貢献された高齢者に対して敬意を表し、長寿を祝福することで地域における敬老精神の高揚に寄与する。	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
①敬老賄費の支給	満７５歳以上の高齢者数を把握し、自治会長等に確認を行い、自治会等における人数を確定させたうえで、賄費を支給した。

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	敬老の節目を迎える高齢者に対し、敬老会を開催し長寿を祝福することは、多年の労に対する敬老思想の高揚を図るため欠かせないものであり、それを維持することは必要である。当該事業を実施しない場合、各地区において開催する敬老会に影響を及ぼす。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る	敬老会に係る賄費を支給したことで、高齢者自らが健康増進に努める意欲の向上が図られ、敬老会の開催などで町民の敬老思想の高揚が図られた。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 □事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 ■その他	敬老会を開催するための必要最小限度の助成であり、限られた範囲内で実施している。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	各自治会が実施する敬老会等に対し支給するものであり、公平と考えている。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
高齢者自らの健康増進に努める意欲の向上のため敬老会の開催に係る賄費の支給は必要不可欠であり、高齢者福祉の向上を図るうえでも適当である。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
町からの助成は、敬老の節目を迎える高齢者と地域住民にも、敬老会の開催は生活に溶け込んでおり、最低限の助成は確保すべきと考えられ、現状維持が適当である。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）